(様式1)

自己評価票

	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、地域を意識した内容として職員全員の意見を取り入れた理念を立てている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼時全員で内容を理解した上で声に出し読み上げを行い、意識を高めるという取り組みを実施している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には訪問時やイベントを通じて、運営推進会議を利用し理念を含め実践をアピールしている。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	散歩や買い物などに出掛け、近隣の人達と挨拶を交わす、会話をするなど日常的に交流を図っている。また町内会の事業への参加、回覧板や子供達が遊びに来て下さるなど近隣住民とのふれあいの機会を作っている。	○	地域の認知症普及に関しては職員で取り組みを考えていきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価について意義や目的を職員に伝え、自己評価は全スタッフの意見を取り込み、評価後の結果を全員に伝え、改善に向けて話し合いを持っている。		
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価の状況報告と年間行事や、利用者の声を取り上げた計画等の進捗状況などを報告し意見・質問等いただき一つひとつ課題に取り組んでいる。		
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者とのふれあいや実情を見て質の向上のための意見をいただく、より現場に近い会議をという趣旨で運営推進会議以外の日程で現場への来訪を計画し案内しています。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内で開催する研修へ参加し理解を深めている。必要なケースの機会にスタッフへの説明を行うと共に制度について、いつでも確認出来る情報を事務所に準備している。		
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年2回の法人内で開催する研修へ参加し、ケアの中で当たり前に行っている事が虐待にならないか情報を得ている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4．理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明と重度化や看取りについてと状態変化に応じて随時報告・相談等行いながら最適の対応を講じる旨を説明している。		
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内スタッフだけでなく他者の来訪時には利用者とふれあうきっかけを作り会話してもらっている。		
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時以外に毎月1回は受診結果を含め現在の状況を電話で連絡させて頂いている。金銭に関しては出納帳の記入と家族への発送を行っている。職員異動に伴う担当変更時には職員紹介を含めて連絡している。		
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には気軽に話してもらえる雰囲気作りに留意している。またケアプラン更新時には家族との対話にて事業所への意見・苦情等を確認している。		
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的にスタッフの思いに耳を傾け、個人面談実施で意見を確認、反映させている。		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況に応じ柔軟な対応が出来るように調整している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの異動はなじみの関係を築く上でも避けたいが、スタッフが事業所を離れる場合は「お嫁に行きます」とし、新たな職員が入る場合は「お嫁入り修行に来ました」という声掛けで統一している。		
5．人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外問わず研修への参加を推進しています。各種研修案内は事務所内に掲示しいつでも閲覧出来るようにしています。		
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流を目的に他事業所へ話しはしてあるが実現出来ていない現状である。	○	認知症に関わる研修へ積極的に参加し交流を図る一歩としたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務中に休憩場所・休憩時間を設けている。年に数回、運営者との個人面接や全職員対象スポーツ大会を開催しストレス軽減を図る。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は頻繁に訪れており利用者と過ごしたり、おやつ作りに関わったりしながら職員の様子を観察把握し、時にアドバイスを投げかけている。職能評価にて個人毎の評価と面談も実施している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けた時点から現在の本人の状況をかくにんしたり、家族の訴えに耳を傾けている。		
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在までの苦労や経緯を受け止め、他事業所やケアマネージャー等へ情報をつなげることができる。		
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に事業所への来訪を打診し雰囲気やスタッフの様子を見てもらい事業所の特性を説明、理解していただけるような働きかけをしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に過ごしていく中で“助け合って生活していきましょう”というアピールを言葉と態度で示すことをしている。また利用者から学ぶことは様々な場面で有り、感謝と尊敬の念を素直に表現出来るような関係が築かれている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況やスタッフの思いをきめ細やかに伝えることや、家族の思いに沿いながら支援を進めていくことを説明し協力を得ている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との関係が途切れないように、日頃の様子を電話や手紙などで連絡し、イベントごとにかかわりを持てる様な計画を立て実践している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの行きつけの場所や関わり・こだわりはそのままに継続し、交流が途切れないように支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性をスタッフ全員で情報共有し、皆で笑って過ごす場面作りや、個別に話しを聞く時間を持つなどスタッフは調整役として支援を進めている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他事業所へ移られた後も自由に行き来出来るようにこちらからモーションをかけ関係を継続している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1. 一人ひとりの把握**				
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まず本人からの聞き取り、次に家族への確認をしこれまでの生活歴を大事にした話し合いを持っている。		
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報と、実際に本人の自宅へ出向きどんな生活をしてきたかの把握をしている。		
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	出来ることを繰り返し行っていただき、出来ないことは助け合うという姿勢で現状を観察し、分かる力は褒めることで繰り返し訓練している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人の生活習慣や癖･こだわりを大事にし、家族の思いを合わせてプランに反映している。		
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、援助の評価を行い、3ヶ月ごとの見直しや本人の状態変化に応じて変更しています。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はパソコンで管理し、個別に記録確認することを勤務時間前に義務づけており、その他口頭での情報共有を図りプラン見直しに活かせている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人への柔軟な支援はもとより受診や送迎など必要な対応を講じ、個々の満足感を高められるように努めている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化･教育機関等と協力しながら支援している	本人が安心して地域で暮らしを継続出来るよう、周辺施設の方へ顔馴染みになる働きかけを行っており、週1日はボランティアの協力が得られている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネージャーや他事業所スタッフとの繋がりはあり、必要に応じて対応出来る。近隣の温泉利用も可能な状況にある。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じてセンタースタッフとの情報交換や連携を図ることが出来る体勢となっている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医へ受診継続が支援出来ている。基本的にスタッフ付き添いで受診しているが、家族が受診支援して下さる時もある。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	受診時にはメンタルヘルス科や主治医への相談、助言をいただいている。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護による週1回のヘルスチェック、個人の状態・受診結果報告を実施している。緊急時や状態変化時には随時相談出来る体制にある。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるダメージを極力防ぐため、本人への面会を行い、医師と話をする機会を持ち、事業所として対応可能なレベルまで安定した時点での退院をアプローチしている。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の指針に沿って本人と家族の意向を踏まえ、医師・スタッフが連携を図り全員が納得出来るような話し合いを持ち方針の共有を図る。		
45	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の気持ちを重視し、家族と話し合い本人が安心して終末期を過ごせるように支援する。状態変化時には訪問看護や医療機関との連携が図れるようにしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ケアプランや情報書類でのやりとりと、担当職員との面談･連絡･情報交換を行い、ケアの継続を図っている。移動した後も馴染みのスタッフが面会し連携を図っている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** (1) 一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人前であからさまに介護したり、誘導時の声掛けで本人を傷つけず目立たせない配慮をしており、スタッフ間で注意し合っている。また記録や保険証など個人情報の取り扱いについては漏れないように厳重に注意しスタッフへ徹底している。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	スタッフが決めたことを押しつけるものではなく、複数の選択肢を提供し自己決定出来る働きかけをし、実際に行動に移せるよう支援している。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの行動を阻止することはなく、思いのままに生活出来るようスタッフは付き添っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの美容室へ通ったり、希望時にはスタッフによる髪染めを実施している。毎日の服装も個人の決定を尊重している。出掛けた先では店員や近所の人との触れあいを楽しんで頂くようにしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事・おやつは利用者とスタッフと全て同じものを食べ、感動を分かち合い会話を楽しんでいる。メニューの決定から調理、片付けまで共同作業が出来ている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が今まで同様に馴染みの嗜好品が食べられ楽しめるよう、スタッフ間で情報を共有し提供している。		
53	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を利用し、時間や間隔の把握を行い、例えオムツを使用していたとしても可能な限りトイレで排泄が出来て快適に過ごせるように援助している。、		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望が有ればいつでも対応可能な柔軟さが有り、混浴希望の場合にはスタッフも一緒に入浴します。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一日の生活リズムが安定するように工夫し、それぞれの体調に応じた休息が取れるよう声掛けをしたり、就寝前の支援により安眠を促せている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴から役割を汲み取り、行ってもらった後にはお礼を述べ喜びを分かち合っている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額を自己管理している人や外出時には、本人が支払を行えるように協力している。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は気分転換・ストレス発散・五感刺激を得るチャンスとして捉え、本人の希望時だけでなく天候を見て気付けるような声掛けをしている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人からの希望が聞かれたら、その時の感情を大事に可能な限り実現出来るよう計画している。希望がない場合にも新聞や情報誌などを利用し関心への働きかけをしている。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用出来る状況にあり、希望時には対応し、手紙についても同様で投函するまでを支援している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	「お客様はもてなしなさい」と利用者からの指導があり、その繰り返しが来訪に繋げられていると思う。また連絡を取り合う機会には「いつでも遊びにお越し下さい」の一言を添え、気軽に訪問出来る工夫をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護や身体拘束に関するマニュアルでのチェックと法人内で年2回実施の研修会への参加でスタッフの共有認識を図っている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中：玄関や通用口の施錠をせず、自由な行動を阻止するのではなく、思いのままの行動にスタッフは付き添い、頃合いをみて帰宅の声掛けをさり気なく行っている。夜間：利用者の声から『防犯・安全・安心』のために施錠を行っている。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人と同じ空間の中で記録を行いながらさり気ない所在・安否確認をしている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くことはなく、本人の状況変化に応じ保管の仕方やリスクを防ぐ対策をスタッフ間で話し合い取り組みを実行している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防ぐべく個人ごと考えられる危険に対してケアの仕方を検討・実行している。例として誤薬に関して、スタッフ複数人のチェックがあり防止出来ている。起こってしまった事故に合わせた各種報告用紙があり、対策は全スタッフが関わり共有事象として扱い、家族への連絡は迅速に行っている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護士による急変時対応は研修会を開催しており、外部では消防士による救命救急法を学んでいる。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年2回防災訓練を実施。実際に利用者参加の避難訓練を行い避難系統を体得している。緊急時の電話連絡網があり、いざというときには協力体制がある。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ケアに対する考え方を説明し『自由に』ということはリスクも伴うということの理解を求めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックを記録として残し、状態変化時には随時訪問看護に連絡しアドバイスを受け対応している。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を随時ファイリングし確認出来るようにしている。担当が仕分けた薬を服薬する時には、再度服薬確認一覧と照らし合わせ間違いのないことをチェックした後、手渡し飲み込んだことを確認してから次の行動へ移っている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	各種資料や訪問看護からの意見を参考に、まずは食物と身体を動かすことから便秘対策を行い、それでも排便困難な場合には医師に相談しています。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内を見られるというプライバシーに配慮しつつ、一人ひとりの力に応じた歯磨きケアを毎食後に声掛け行動を促しています。週1回（就寝前～起床時）ポリデント洗浄を実施している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士から献立表をいただき参考にしている。食事の摂取量に応じて補食や嗜好品を準備し対策している。水分は一日の提供量を合わせると1200CC以上で、気温や希望に応じて増量あり。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルに応じた対策を行い、日常的には勤務の前後・帰宅時の手洗いうがいの実践を義務付けている。感染症に関しての新たな情報を取り込みマニュアルの見直しをしている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・付近などは漂白除菌を行い、食器類は洗浄後乾燥機にかけており清潔を心掛けている。台所の掃除は毎日行い、冷蔵庫内や食材点検・鮮度の確認をしている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口には表札代わりを置き、玄関までのアプローチにはプランターの花の植え込みを配置し明るく柔らかい雰囲気作りに工夫を凝らしている。景観を話題に自然に入ってこられるよう心掛けている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	五感刺激への配慮(色彩・光・影・音・匂い・味・手触り・空気の流れ)を行いストレスを与えないような環境作りを工夫している。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	セミパブリックスペースを設けて、仲の良い・気の合う人とくつろげる場としている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真、使い慣れた家具・日用品を部屋に持ち込み、安心した場所を作る工夫をしている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除後、食後、随時と必要に応じて換気し、本人の発汗状態も合わせて確認している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の身体機能を見極め、必要に応じて手すり取り付けも考慮し、家具の配置換えなどの対策で自立と安全確保に配慮している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの分かる力を見極め、失敗を最小限に、本人の力で行うにはどうしたらよいかを追求し環境整備に工夫している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花を植え、畑のスペースを確保し日常的に楽しみながら活動出来る環境があり、リビングからすぐウッドデッキに出て日光浴が出来る椅子の準備をしている。		

（　部分は外部評価との共通評価項目です　）

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項　目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭的雰囲気を大切にしており、ゆったりとした生活の流れの中で利用者個人個人が思いのままに過ごしていただくことを優先しています。
一日を無為に過ごされることがないように理念に掲げているような適度な刺激や気づいて貰えるような働きかけなどを自然に出来るよう工夫しながら実践しています。地域や家族との交流強化として、出掛けていくばかりでなく事業所へ来てもらえるような働きかけを模索中です。家族へは年間行事計画一覧を渡しイベント毎何かしらの関わりと協力を依頼しています。職員の技能向上に関して、個人の目標を2ヶ月毎に立て自己評価していくことを繰り返し、自身の振り返りが出来、反省や達成の喜びなどを確認出来る体制を取っている。また学びたいという気持ちがあるためパート職員であっても研修への参加を勧めている。